

巻頭言

日頃より「明電時報」をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。「明電舎 120周年記念特集」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

1897年(明治30年)、創業者重宗芳水は必ず電気の時代がくると確信し、「明治の時代に電気の志を同じくする者が集う所」として明電舎を起業しました。外国製モータの修理事業からスタートした当社は、1901年(明治34年)には三相誘導電動機の自社開発に成功し、「モートルの明電」と親しまれつつ電動機・発電機・変圧器などを製造する重電メーカーとして成長しました。さらに昭和40年代にはエレクトロニクス技術を取り入れ、現在に至る社会インフラ分野で幅広く活躍できる企業としての礎を築きました。そして2017年(平成29年)、当社は創業120周年を迎えるに至りました。これも皆様方の当社に対する一方ならぬご指導並びにご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げる次第です。

昨今の世界経済は英国のEU離脱、中国経済の成長鈍化、米国の政策転換など、いくつもの重要な変化が絡み、また保護主義の兆しも見受けられ、行く先の予測がより難しくなりました。一方、国内に目を移すと人口減少や国のデフレ脱却途上など様々な課題に直面しています。しかしながら、マクロ的には世界全体で3%以上、日本を除くアジア圏では6%以上の成長率も見込まれ、必ずしも悲観的になることもありません。

このような経済状況の中、創業120周年にあたる今年度は当社グループの中期計画「V120」の最終年度になります。V120では「社会インフラの未来を支え、

取締役社長

浜崎 祐司 Yuji Hamasaki



持続的に成長、発展できる重電メーカー」をビジョンに掲げ、「製品力で新しい『未来』を創造する」取り組みを行っています。そのため第一に製品競争力の強化に取り組み、重電コア製品へ集中的に研究開発投資を行いました。その成果はスイッチギアでは世界初となるVI (Vacuum Interrupter) を用いた145kVのGIS (Gas Insulated Switchgear) の製品化、4極突極タービン発電機の初号機完成、独自回路によるトランスレス高圧インバータや250kW-2万回転の高速モータ開発などに表れてきています。

これら社会インフラ事業を支える製品群の稼働時間は数十年単位という長い時間軸を持つことが普通です。今までは定期的な点検・部品交換でこれに対応するのが一般的でした。しかし第4次産業革命の中核技術とも呼ばれるIoT (Internet of Things) の出現で状況が変化しつつあります。この変化に対応し、IoTへの取り組みも強化してまいりました。重電コア製品とIoTを組み合わせることで製品やシステムの「新設」・「補修」・「更新」の良い連鎖を作り出せます。これは国内で課題となっていく人口減少に伴う人手不足解消やインフラの長寿命化にもつながります。

この分野の一例として、エレベータのロープ点検システム「ロープテスタ」があります。巻き上げ機などを納めたお客様へ、新たな周辺機器としてご提供を開始したものです。当社が以前から取り組んできた画像処理技術を応用し、お客様と共同で開発いたしました。ロープテスタは保守作業員の効率化のみならず安全にも寄与し、画像センサのデータを利用して寿命予測に役立てることもできます。このほか「変圧器オンライン余寿命診断システム」なども開

発いたしました。寿命予測ができれば、より適切な「補修」や「更新」ができ、ご購入いただいた機器の維持コストの低減や、より一層の稼働時間向上につながります。今後も診断対象を増やしていく所存です。

日本経済は2015年頃から方向感不明瞭な景気の踊り場入りしているとも言われています。当社ではこれを「挑戦できる踊り場」と捉え、ご紹介した様々な挑戦を続けてまいりました。しかし急変する様々な事業環境下でV120を達成し、持続的に成長・発展できる重電メーカーとなるためには当社単独の努力だけでは達成ができません。そのため当社では「パートナーシップの強化」を推進しています。先ほどご紹介した「ロープテスタ」もその一例です。パートナーシップはお互いの特長を生かし、国内外を問わず地域や製品の特性に適した強化が見込める相手と関係構築を進めているところです。時代の最先端技術を取り入れ、パートナーシップを強化することで新たな刺激を積極的に取り入れ、挑戦し続けることで必ず新しい付加価値が生まれるはずです。

当社はリーマンショックからの苦境を乗り越え、7期連続の経常増益を達成してまいりましたが、景気の踊り場の中、8期連続には至りませんでした。しかしご紹介したような挑戦の積み重ねによってV120を達成し、120周年を機に再び力強い成長軌道を目指してまいります。

今後も当社はおお客様の視点に立った製品やサービスの提供を目指し、更なる技術の研さんに努める所存です。皆様方の引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。